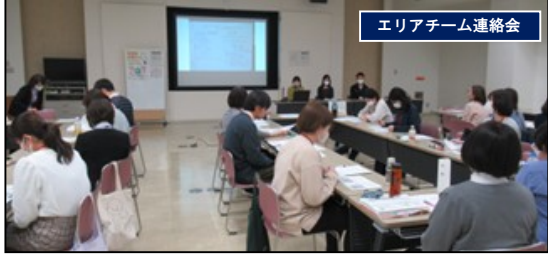



活動成果報告書

令和7年度（第29回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 組織横断的な取り組み「エリアチーム連絡会」と「防災フェスタ」 ～災害時に動ける保健師をめざして～	
グループ名称・氏名 （グループの場合は代表者名） 大和市役所 健幸・スポーツ部 健康づくり推進課 代表者：浅倉 久子	 エリアチーム連絡会
勤務先 ：大和市役所 所属 ：健幸・スポーツ部 健康づくり推進課 所在地 ：〒242-8601 神奈川県大和市鶴間一丁目31番7号 TEL ：046-260-5803 FAX ：046-260-1350	 防災フェスタ

<p>◇活動方針</p> <p>「大和市保健師活動方針」と「大和市災害時保健師活動マニュアル」に基づき、健幸・スポーツ部とあんしん福祉部、こども部の3部6課に分散配置している約50人の保健師は、組織横断的な取り組みを実施しています。</p> <p>令和3年の新型コロナワクチン接種業務や改訂大和市災害時保健活動マニュアル説明会等を通して、保健師間の顔の見える関係の構築と災害時保健活動を理解し実践できるようにするための平時の取り組みが課題であることを把握しました。これらの課題解決のために、「エリアチーム連絡会」の実施と「防災フェスタ」におけるブース出展を行っています。</p> <p>「エリアチーム連絡会」は、地区把握と各課の業務を理解し、効果的・効率的に業務を推進すること、災害時の保健活動を円滑に実施することができるよう連携を図ることを目的に、全保健師を対象として令和4年度から現在の方法で実施しているものです。「防災フェスタ」は、子どもから高齢者まで幅広い世代へ、災害時の健康管理に関する普及啓発を実践することにより、災害時に迅速な保健活動ができるようにすることを目的としています。</p> <p>◇活動内容とその成果</p> <p>1. エリアチーム連絡会</p> <p>北部エリアチーム連絡会、中部エリアチーム連絡会、南部エリアチーム連絡会（以下、「各エリアチーム」という。）の3エリアに分かれ、各エリアチームで3回、各エリアチーム合同（以下、「全体報告会」という。）で1回実施しています。各エリアチームはリーダー（1人）とサブリーダー（2人）が当日の運営を行っています。各エリアチームが3回（1回1時間）の計画を立て、地区把握、事例検討、災害時保健活動からテーマを選択して実施しています。表1は各エリアチームの活動内容の概要です。</p>	 ロールプレイの様子
--	--

活動成果報告書

【表1】活動内容の経年的概要

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
北部	地区把握 事例検討	地区把握 避難所等のマッピング	能登半島地震派遣体験談 事業中シミュレーション	包括支援係と事例検討 (他課連携)
中部	地区把握 災害時保健活動拠点	地区把握、母子福祉避難所 ロールプレイ	妊産婦避難所シミュレ ーション	受援オリエンテーション (県と連携)
南部	地区把握 災害時保健活動拠点	地区把握 糖尿病支援事例検討	避難所の衛生対策	福祉避難所トリアージ (他課連携)

令和4～6年度の各エリアチームの出席者は8人～20人、全体報告会は33人～37人、毎年合計10回実施し、合計出席者は141～152人です。

令和6年度のアンケート対象者（全体報告会出席者）は36人、回答者は30人（83.3%）でした。アンケート回答者の入庁年数は1～3年目が8人、4～10年目が12人で、10年目までが半数以上（66.7%）です。アンケート評価は「5（よかった・できた）」から「1（そうでもない・できなかった）」の5段階の選択式とし、理由は記述式としています。全体報告会は「5」が27人、「4」が1人で合計28人（93.3%）が良かったとの評価をしています。各チームの取り組みが共有できた、母子健康手帳や妊産婦の避難所シミュレーション、事業中の発災シミュレーション、避難所衛生管理やラピッドアセスメントシート等が理由として多く挙げられていました。「各エリアチームの取り組み」は「5」が24人、「4」が2人で同様に86.7%が良かったと評価し、学びを深めることができたことや他課職員とのコミュニケーション、意見交換、シミュレーション等が理由となっていました。

また、単年度の成果に加え経年的に振り返ると①リーダー等役割の体験とチーム力の向上②多数の出席と取り組みの共有③顔の見える関係づくりと人材育成ができていますと考えます（表2）。

【表2】経年的取組みの成果

項目	具体的な成果
リーダー等役割の体験とチーム力の向上	各エリアチームは、リーダー、サブリーダー（以下、「リーダー等」という。）を複数人配置し進捗管理を行っているため主体的な取り組みができています。リーダー等は毎年選任しているため経験者が増え、チーム員にリーダー等を支えようとするチーム力の向上がみられる。
多数の出席と取り組みの共有	各課の事業に配慮し日程を決め、1回1時間としていること等が出席しやすさにつながり、出席者は多い。全体報告会で他エリアチーム連絡会の活動報告を聴くことにより、新たな学びや気づきが見られることから、各エリアチームの取り組みを全体で共有する場は重要である。
顔の見える関係づくりと人材育成	職員間の顔の見える関係づくり等の目標を達成したと感じる職員が多く、主体的に考える職員が多くなったことから、エリアチーム連絡会は有効だと考える。事例検討や各課の業務理解が深まる活動で組織横断的な取り組みは、職員のスキルアップ、人材育成にも繋がること示唆されている。

令和7年度は、初めての試みとして他課他機関連携ができるよう計画し実施しています（表3）。北部エリアチーム連絡会は、包括的支援体制の推進をするケースワーカーと複合課題家族の事例検討を行い、包括的支援の理解を深めることができました。中部エリアチーム連絡会は県の保健師と受援オリエンテーションについて、基本情報や業務説明、報告方法等を検討することにより、受援体制の準備として県と市の役割分担を具体的にイメージすることができるようになりました。南部エリアチーム連絡会は福祉避難所の所管課から福祉避難所の対象者となる避難行動要支援者支援制度、個別避難計画について具体的に説明を受けたあと、福祉避難所トリアージ結果についてすり合わせを行い、理解を深めることができました。

【表3】令和7年度エリアチーム連絡会

	北部	中部	南部
テーマ	包括支援係と事例検討	受援オリエンテーション	福祉避難所トリアージ
第1回	R7.7.14 事例検討の概要と事例選定	R7.7.11 受援体制(ガイド)を学ぶ	R7.7.7 福祉避難所概要とマッピング
第2回	R7.11.28 保健師・栄養士で事例検討	R7.10.17 受援オリエンテーション準備	R7.10.1 福祉避難所トリアージ
第3回	R8.1.8 包括支援係と事例検討	R8.1.7 県保健師との連携	R7.12.24 福祉避難所所管課と連携
第4回	R8.2.17 全体報告会（北・中・南合同）		



活動成果報告書

各エリアチームが、平時から、多機関多職種連携の取り組みをすることを通して顔の見える関係づくりが必要であることを、改めて共通認識することができたことも成果だと捉えています。

2. 防災フェスタ

危機管理課が主催する防災フェスタに、各課から選出された保健師・管理栄養士がブースを出展し、災害時の健康管理に関する普及啓発を行っています。口腔ケアについては、県や歯科医師会の歯科衛生士と連携して普及啓発を実施していることが特徴です。担当者会議で準備を重ね、実施、後日担当者で振り返りを行い、翌年に反映させるPDCAを繰り返しています。

令和6年度は、歯額模型、感染症対策物品一式、沐浴人形（哺乳瓶がない時の授乳方法）、パッキングッキング、紙で作る食器等、視覚的にわかりやすく、体験できるものを内容としました。エコノミークラス症候群の予防は、能登半島地震で話題となった車中泊をテーマに、熊本地震のデータを用いてイメージしやすく、また、本市の車中泊ルールがわかるポスター「車中泊のPOINT!」を新規作成しました。加えて、令和7年度は、季節等によって考慮すべき「災害発生時の注意点」のポスター、子どもにも災害時の食事を意識してもらえるよう、ローリングストックをマンガで示した資料等を作成し、普及啓発に努めました。

令和5年度411人、令和6年度430人、令和7年度は480人に災害時の健康管理について普及啓発ができました。実施後の振り返りと事後アンケートでは、実施内容に加え、「県や歯科医師会の歯科衛生士と連携できたことが良かった」、担当者会議で「他部署の方と時間を共有し相互理解が深められた」、防災フェスタ当日の「先輩方の説明を聞いたりすることで『こんな方法や伝え方があるのか』ととても勉強になった」こと等が共有できました。また、令和7年度は子どもへの普及啓発も意識し媒体を準備したため、親子で体験できることが喜ばれた、親子に普及啓発ができて良かったとの感想も多く確認できました。

令和5年度は災害時保健活動マニュアルの補足資料（令和4年度エリアチーム連絡会の災害時保健活動拠点の統合資料）の作成を、令和6年度は令和5年度の県災害時保健活動研修の伝達研修を、担当者会議に含めました。これらの連動した取り組みを通し、大和市災害時保健活動マニュアルの補足資料が作成され、災害時保健活動の平時の取り組みの意識が高まっていると考えます。

令和6年度作成ポスター



令和7年度作成ポスター



ローリングストックマンガ



防災フェスタブース



◇今後の計画

感染症や災害等の健康危機発生時は、組織横断的な「保健師チーム」としての活動が求められることを新型コロナウイルス感染症対策や能登半島地震応援派遣から学び、「エリアチーム連絡会」や「防災フェスタ」を実施しています。また、健康危機発生時の連携は、平時の延長上であることから、多機関多職種連携ができるよう工夫をしています。これらの取り組みを保健活動戦略検討チーム（各課保健師代表）会議で共有し、今後も組織横断的な取り組みを継続することにより地域保健活動を推進していきたいと考えています。